2006 年 10 月 4 日 (水)

都筑工場見学

8 月に東京都から横浜市へ転居した。ごみ収集のシステムが少し異なっており、状況を調べる手始めとして、自宅から煙突が良く見える都筑工場の見学プログラムへ参加した。焼却方法は今まで見学した江東区、杉並区、相模原市の工場と大差なかったが、見学に先立って横浜市が推進しているヨコハマＧ３０プランの説明があった。これは平成２２年度における全市のごみ排出量を平成 13 年度に対して３０％削減するプランである。そのため平成 17 年 4 月から、全市全域で家庭ごみの分別収集品目を拡大し、10 分別 15 品目の分別収集実施しているとのことである。10 分別とは家庭ごみ（燃やすごみ)、スプレー缶、燃えないごみ、使用済乾電池、プラスチック製容器包装、缶など（缶、びん、ペットボトル)、小さな金属類、古紙、古布、粗大ごみである。15 品目とは 10 分別のうち缶などを缶、びん、ペットボトルに分け、古紙を新聞、雑誌その他、段ボール、紙パックに分けて 15 品目としている。現在までの成果として平成 13 年 161 万トンあったごみが平成 16 年には 132 万トンまで減少し、平成 22 年 30%減の 113 万トンへ着実に進んでいるとのことである。ごみの減少により老朽化した栄工場（2001.1.停止）と港南工場（2006.1.停止）を廃止し、現在次の 5 工場で焼却を行っている。

工場名	操業開始時期	焼却能力	発電能力
鶴見	1995.4.	400tx3/日	22,000kw
保土ヶ谷	1980.6.	400tx3/日	4,200kw
旭	1999.4.	180tx3/日	9,000kw
金沢	2001.4.	400tx3/日	35,000kw
都筑	1984.3.	400tx3/日	12,000kw

ごみ減量作戦の順調な進捗により、ごみの発生量が減り、発電を効果的に行うため、発電効率の良い新しい工場での焼却量を増加させている。従って、都筑工場の場合、3 基ある焼却炉のうち 1～2 基を運転しているとのことである。

焼却の目的はごみの減量であり、体積ベースで 1/20、重量ベールで 1/5 となる。

都筑工場の全景（パンフレットから）

関連 WEB サイト：

http://www.city.yokohama.jp/me/pcpb/shisetsu/tsuzuki_k/index.html

http://www.city.yokohama.jp/front/welcome.html

http://www.city.yokohama.jp/me/pcpb/g30/index.html

http://www.city.yokohama.jp/me/pcpb/shisetsu/shi6.html